

## e&amp;e REPORT

No.100

E&Eレポートは、企業・国・海外の省エネや環境情報を、少しでも皆様にお届けしたいという思いから、毎月発行しているニュースレターです。  
地球温暖化防止にお役立て頂ければ幸いです。

発行日 2010年 1月 27日  
発行元 E&Eプランニング  
責任者 宮本康弘  
川崎市中原区市ノ坪223-4-515  
電話/FAX 044-434-7291  
メール miyamoto@d03.itscom.net

## ToPic 企業動向

## ●日立化成がCO2排出量を業績評価に連動。

「カーボン評価システム」は機能性材料や自動車部品、電子材料の生産機能を持つ全12事業部門と、主要子会社9社で導入。排出枠は08年度の排出実績と原単位での生産予測を基に、10年度の量を算定し各部門などに伝えた。各年度で排出枠を上回った場合は、超過排出量に一定価格をかけた数字を損失とみなし、目標を上回り削減できた分は利益とみなす。排出量の価格は欧州の排出量取引市場の価格より高めに設定する。

国内のグループのCO2排出総量を15年度に1990年度比15%削減する目標を掲げる。事業部単位の目標設定で現場の意識向上に生かす。 「日経産業新聞」

宮本一言メモ CO2排出量が経営の一つの指標になりつつある。

## ●高島屋が全店LED照明に 12年までに15万個、電気代5分の1。

2012年までに白熱電球の一種であるハロゲンランプを発光ダイオード(LED)照明に切り替える。東京都が4月から導入する大型施設を対象にした二酸化炭素(CO2)排出規制などに対応し、省エネ型照明を採用、コスト削減もねらう。投資額は30億円前後。百貨店のCO2排出量のうち約4割が照明。ハロゲン全廃で電気代を従来の約5分の1に圧縮し、冷房効率の向上でCO2排出を7%以上削減する計画。年間5億円強のコスト削減。 「日本経済新聞」

宮本一言メモ 当面の省エネの切り札としてLEDが一気に普及しそうな勢い。

## ●韓国VBのテクルクスが工事不要の蛍光灯形LEDを日本で販売。

点灯不良を防ぐため、国内の主要な安定器の回路特性を調べ、蛍光灯形LEDに内蔵させ、ラピッド式など3タイプに対応できるよう品揃え。定格消費電力はラピッドタイプの2灯用器具の場合で46W、電子式では48W。新製品で事故が起きた場合は、最大100万ドルを補償。ヤマダ電機を通じて販売。1本24000円程度 「日経産業新聞」

宮本一言メモ LEDの寿命が長いだけに、将来、ソケット、配線の劣化が気になる。

## ●大京が太陽電池＋蓄電池をマンションで活用実験。

東京都内の地上8階建て、総戸数約50戸のマンション。蓄電池と組み合わせることで昼間だけでなく夜間でも太陽光エネルギーを活用。電力消費を監視するシステムも導入。電力消費の状況を各世帯がインターネットを通じて確認でき、省エネを進めやすくする。発電した太陽光エネルギーを有効活用することでマンションのCO2排出量を50%程度削減することを目指す。 「日経産業新聞」

宮本一言メモ マンションの屋上すべてに太陽電池を設置すれば相当量のCO2削減になる。

## ●ミサワホームが太陽光発電住宅の「国内クレジット制度」の事業承認取得。

太陽光発電システム搭載住宅オーナーの会員組織を発足させ、会員から毎年度末に総発電量と売電量の報告を受け、自家消費電力分を取りまとめて、国内クレジット認証委員会に報告。排出枠として認証を受ける仕組み。1世帯の平均的なCO2排出量は約1トンを見込む。排出枠の売却相当額は植林などの環境貢献活動に生かす予定。 「日経産業新聞」

宮本一言メモ 家庭や中小企業の手続きの手間を減らせる形のサービスは支援策として重要。

## ●山武が建物オーナー向け定期報告書作成支援ソフトを開発。

一定規模以上の事業者は、すべての事業所を合算したエネルギー使用量の報告書を作成する義務が生じる。建物オーナーはテナント事業所に電気の使用量や空調消費熱量を提示しなければならない。空調消費熱量の計算は煩雑だが、BAシステムや熱量計などの情報から報告書用の数値を推計する機能を備える。価格は200万円から。 「電気新聞」

宮本一言メモ 結構な価格。データ入力作業がポイント。

## ●居酒屋チェーンのマルシェがメニューのCO2排出量表示を開始。

12月末時点で全630店に導入が完了。排出量は、店舗オリジナルメニューを除く全フードメニューについて、重量×輸送距離数×排出係数(輸送手段)という独自の方法で算出した数値を使用。本社所在地である大阪を基準にして、全国統一で数値を記載。今回の算出方法では、数倍から数十倍もある栽培方法の違いによるエネルギー消費量の差が反映されていないが、将来的には、カーボンフットプリントの表示にも取り組む意向。 「グリーンプラス」

宮本一言メモ このような活動が暮らしの変革に大切。「八剣伝」や「酔虎伝」に行ってみてください。

## ToPic 国・地方自治体動向

## ●福島県が新年度にCO2「排出権」販売を検討。

検討する排出権販売の仕組みは環境省が平成20年に創設した「オフセット・クレジット(J-VER)制度」を活用する方針。県内のペレットストーブの使用実績を基に二酸化炭素排出削減量をまとめ、国の認証機関が発行する「クレジット」を企業に購入してもらう構想。販売収益は森林整備などの資金とする考え。 「福島放送」

宮本一言メモ ペレットストーブの環境付加価値を自治体に取りまとめ、販売する方法は、普及に役立つ。

## ●政府が温暖化対策法案で「再生エネルギー20%以上」の方向。

エネルギー白書によると、国内の06年の再生可能エネルギーの割合は約1.8%で、アメリカ(3.7%)やドイツ(5.3%)を下回っている。民主党は政権公約で「20年までに10%程度に引き上げる」としていた。世界では再生可能エネルギーの企業が伸びていて、産業として大きな潜在力がある。高い目標設定が産業育成につながるとの認識。国による再生可能エネルギーの普及への支援や、電力の買い取り制度の充実が重要との考え。 「読売新聞」

📖 宮本一言メモ **再生可能エネルギーの普及に向けた国の支援強化が望まれる。**

## ●東京都の新年度予算でCO2削減に1096億円。

3ヵ年計画の実行プログラムの主要事業の一つとして、都は中小規模事業所のCO2排出削減を強力にバックアップする方針。今年4月から全国で初めて大規模事業所に対してCO2の削減を義務付けるが、対象外の中小規模事業所に対しても排出削減を推進するため、新年度から2年計画で80億円の基金を投入して500程度の中小規模の事業所に対し省エネの機器に切り替えるための資金的援助を行うことを決定。費用の4分の3、上限7500万円を補助する。中小規模事業所のCO2排出量は産業部門のうちおよそ6割を占めていて、環境に配慮した都市づくりを推進するために無料の省エネ診断も積極的に実施予定。 「Tokyo MX NEWS」

📖 宮本一言メモ **20~30%のCO2削減効果は大きいですが、大半は太陽光発電？**

## ●首都圏1都3県を対象にした共同の排出量取引制度の創設を検討。

自治体単位では、東京都と埼玉県が独自の排出量取引制度を2010年度以降に導入する方針。これを1都3県で統合・共通化し、自治体の境界を越えて企業同士で排出枠を取引できるようにする構想。共同の制度を検討しているのは東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県に、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市を加えた8都県市。8都県市は共通の政策課題に取り組む「首都圏広域連合」(仮称)を設置することで合意。環境分野では共同の排出量取引制度の創設、キャップ・アンド・トレード方式の仕組みを検討。

東京都は10年度から、約1400事業所を対象に、埼玉県も11年度から、600程度の事業所を対象に同様の制度を開始する予定。8都県市は、これらをたたき台に11年度以降、取引制度を首都圏全体に広げていくことを目指す。 「読売新聞」

📖 宮本一言メモ **早期実施を期待していたのですが、国はなかなか動きそうにありませんね！**

## Topic 海外動向

### ●世界の排出権取引、1360億ドル規模に。前年比68%増。

ポイントカーボン社(本社ノルウェー・オスロ)が2009年の排出権取引の市場規模に関する調査結果を発表。世界的な景気低迷による排出権価格の低下に伴い、取引額は2008年の1330億ドルから1360億ドルとわずかな伸びだったが、取引量は68%の増加を記録し82億トンとなった。市場別では、欧州連合(EU)の排出量取引制度(ETS)、続いて国連が実施するクリーン開発メカニズム(CDM)、米国北東部で展開されている地域温室効果ガス・イニシアティブ(RGGI)が市場を牽引。中でもETSの取引額は世界市場の68%を占めた。 「ECOOL」

📖 宮本一言メモ **10兆円の市場とはすごいですね。取引量の68%増加は何を意味するのかな？**

## Topic 展示会情報

### ● ENEX2010 第34回地球環境とエネルギーの調和展 <http://www.enex.info/#http://www.enex.info/#/>

—低炭素社会実現に向けて、日本の誇る環境技術をご覧ください。

**省エネルギー技術講座(有料)も各種開催されます。** [http://www.eccj.or.jp/education/tech/enex\\_educ/enex\\_educ10.html](http://www.eccj.or.jp/education/tech/enex_educ/enex_educ10.html)

期 間 : 2010年2月10日(水)~12日(金)

場 所 : 東京ビッグサイト

料 金 : 無料

主催者 : (財)省エネルギーセンター

連絡先 : ENEX展事務局 Tel :03-5543-3013 Fax :03-5543-3887

### ● HVAC & R JAPAN2010 (第36回 冷凍・空調・暖房展) [http://www.iraia.or.jp/frameset\\_seminar.html](http://www.iraia.or.jp/frameset_seminar.html)

期 間 : 2010年2月16日(火)~19日(金) 2/15 関係者のみ

場 所 : 東京ビッグサイト

料 金 : 無料

主催者 : (社)日本冷凍空調工業会

連絡先 : HVAC & R JAPAN事務局 Tel :03-3219-3562 Fax :03-3292-1813

## 後記 男性が会社帰りに寄る機会の増えた場所は？ 日経産業新聞

20代~50代の男性対象に調査

不況のおおりで退社時間が早くなった人は帰宅途中に2割強の人が書店、1割がDVD・CDレンタル店などメディア関連店舗に足を向けています。ディスカウントストアやコンビニに立ち寄ると答えた割合も高く、やはり、安い物を買う消費傾向がうかがえます。

📖 宮本一言メモ **大半の人がどこかに寄り道しているようですね。ちなみに、私は、時々八丁堀から有楽町や新橋まで散歩します。**

